

第2章 調査結果の概要

1. 調査の特徴

この調査は、障がい児・者等の実態を把握するとともに、障がい福祉施策を推進するうえでの利用者のニーズを把握することを目的として、令和7年6月に実施したものである。調査結果は、福岡市保健福祉総合計画及び福岡市障がい福祉計画等の策定や今後の障がい福祉施策の方向性を検討するための基礎資料として位置づけるものとしている。

調査対象は身体障がい者、知的障がい者、障がい児（身体・知的）、精神障がい者、発達障がい児・者、難病患者とそれらの対象に関連する事業所を対象に調査を実施した。今回の調査から精神障がい者への調査方法等を変更している。また、調査対象は、障害者総合支援法の対象を網羅しており、全障がい児・者を一体的に調査していることがひとつの特徴となっている。

調査項目も前回実施した項目を踏まえつつ、障がい者団体や学識経験者等で構成されている福岡市保健福祉審議会障がい者保健福祉専門分科会から意見を聞きながら設定したものであり、全障がい児・者に共通する項目と障がい種別に応じた項目とで構成している。

2. 生活の状況について

(1) 住まいの形態

【身体】

最も回答割合が高いのは、「自分や家族の持ち家」(52.3%)となっている。

【知的】

最も回答割合が高いのは、「自分や家族の持ち家」(48.0%)となっている。

【児】

最も回答割合が高いのは、「家族の持ち家」(59.6%)となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「民間の借家や賃貸アパート・マンションなど」(41.1%)、「自分や家族の持ち家」(34.1%)となっている。

【発達】

最も回答割合が高いのは、「自分や家族の持ち家」(51.9%)となっている。

【難病】

最も回答割合が高いのは、「自分や家族の持ち家」(52.8%)となっている。

(2) 同居家族の状況

【身体】

回答割合が高い順に、「夫婦のみ」(31.3%)、「二世帯同居（子と本人）」(24.6%)、「一人暮らし」(23.6%)となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「二世帯同居（親と本人）」(59.2%)、「グループホーム」(18.2%)となっている。

【児】

最も回答割合が高いのは、「親と子のみ（両親あり）」(78.8%)となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「一人暮らし」(35.1%)、「二世帯同居（親と同居）」(24.0%)となっている。

【発達】

最も回答割合が高いのは、「二世帯同居（親と本人）」(81.4%)となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「夫婦のみ」(33.2%)、「二世帯同居（子と本人）」(25.7%)となっている。

(3) 主な介助者の状況

【身体】

主な介助者としては、「世話をしてもらわないといけない」(28.8%)、「配偶者(夫、妻)」(28.4%)の順となっている。

また、介助者の年齢としては、「75歳以上」(29.8%)、「65～74歳」(22.9%)の順となっている。

【知的】

主な介助者としては、「母親」(47.5%)が最も高い回答割合となっている。

また、介助者の年齢としては、「50歳代」(29.1%)、「65～74歳」(23.6%)の順となっている。

【児】

主な介助者としては、「母親」(80.4%)が最も高い回答割合となっている。

また、介助者の年齢としては、「40歳代」(51.1%)、「30歳代」(27.5%)の順となっている。

【精神】

主な介助者としては、「世話をしてもらわないといけない」(40.5%)、「母親」(16.8%)の順となっている。

また、介助者の年齢としては、「50歳代」(27.8%)、「65～74歳」(21.6%)の順となっている。

【発達】

主な介助者としては、「母親」(70.6%)が最も高い回答割合となっている。

また、介助者の年齢としては、「40歳代」(48.7%)が最も高い回答割合となっている。

【難病】

主な介助者としては、「世話をしてもらわないといけない」(49.9%)、「配偶者(夫・妻)」(24.7%)の順で回答割合が高くなっている。

また、介助者の年齢としては、「75歳以上」(25.8%)、「50歳代」(23.5%)の順となっている。

3. 療育や保育・教育について

(1) 障がい児の通園・通学

①通園・通学先(複数回答)

【児】

回答割合が高い順に、「放課後等デイサービス」(33.7%)、「小学校(特別支援学級)」(19.0%)、「特別支援学校(盲・ろう・養護学校)小学部」(18.4%)となっている。

②通園・通学で困っていること(複数回答)

【児】

回答割合が高い順に、「ひとりでは通えない」(38.5%)、「特にない」(34.4%)、「園や学校までの距離が遠い」(21.7%)となっている。

③通園・通学先に望むこと(複数回答)

【児】

回答割合が高い順に、「能力や障がいの状況にあった支援をしてほしい」(46.8%)、「個別的な支援を充実してほしい」(36.6%)、「就学相談や進路相談などの相談体制を充実してほしい」(35.0%)となっている。

(2) 療育や訓練で利用した(利用している)施設

【児】

全体の89.1%が「療育や訓練を受けた(受けている)」と回答している。

利用した施設としては、「放課後等デイサービス」(45.6%)、「あいあいセンター(心身障がい福祉センター)」(35.8%)、「こども病院以外の病院・医院」(24.7%)の順となっている。

また、療育・訓練に対する希望としては、「家庭から施設に通って療育、訓練を受けたい(児童発達支援や放課後等デイサービス)」(44.6%)が最も高い回答割合となっている。

(3) 相談、診察、検査を求めた機関及び障がいの診断・判定を受けた頃の苦勞、悩み、不安 (複数回答)

【児】

診断・相談機関としては、「あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」(39.6%)、「西部療育センター」(23.8%)の順となっている。

障がいの診断・判定を受けた頃の苦勞・悩み・不安としては、「障がいのことや福祉の制度についての情報が少なかった」(57.2%)が最も高い回答割合となっている。

4. 外出の状況について

(1) 外出の頻度

【身体】

全体の40.5%が「週に4回以上」外出すると回答している。

また、主な外出先としては「買い物」(65.8%)、「病院・医院など」(65.5%)の順となっている。

【知的】

全体の68.6%が「週に4回以上」外出すると回答している。

また、主な外出先としては「買い物」(63.7%)、「病院・医院など」(46.6%)の順となっている。

【児】

全体の84.8%が「週に4回以上」外出すると回答している。

また、主な外出先としては「幼稚園・保育所(園)・学校」(74.9%)、「買い物」(68.3%)の順となっている。

【精神】

全体の51.1%が「週に4回以上」外出すると回答している。

また、主な外出先としては「買い物」(74.2%)、「病院・医院など」(71.0%)の順となっている。

【発達】

全体の83.5%が「週に4回以上」外出すると回答している。

また、主な外出先としては「学校」、「買い物」がともに(61.9%)、「食事・喫茶」(41.3%)の順となっている。

【難病】

全体の52.3%が「週に4回以上」外出すると回答している。

また、主な外出先としては「買い物」(74.5%)、「病院・医院など」(56.6%)の順となっている。

(2) 外出時に不便や困難を感じること(複数回答)

【身体】

回答割合が高い順に、「歩道に段差が多い」(36.7%)、「歩行者や走行自転車のマナーの悪さ」(29.5%)となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「特にない」(27.8%)、「歩道がない道路に危険を感じる」(24.2%)、「歩行者や走行自転車のマナーが悪い」(20.7%)となっている。

【児】

回答割合が高い順に、「歩道がない道路に危険を感じる」(40.8%)、「まわりの人の目が気になる」(28.1%)となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「まわりの人の目が気になる」(29.2%)、「歩行者や走行自転車のマナーの悪さ」(28.5%)となっている。

【発達】

回答割合が高い順に、「特にない」(36.8%)、「歩道がない道路に危険を感じる」(24.7%)、「歩行者や走行自転車のマナーの悪さ」(22.1%)となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「特にない」(35.2%)、「歩道に段差が多い」(26.2%)、「歩行者や走行自転車のマナーの悪さ」(22.2%)となっている。

5. コミュニケーションについて

コミュニケーションで困っていることの有無及び困っていること（複数回答）

【身体】

全体の29.7%がコミュニケーションで困ったことが「ある」と回答している。

その内容としては、「相手の話が聞き取りづらい」（47.1%）、「声や言葉がでにくい（声が聞こえない、言葉がでない）ため、自分の思いが伝わりづらい」（36.6%）の順となっている。

【知的】

全体の66.4%がコミュニケーションで困ったことが「ある」と回答している。

その内容としては、「難しい内容やあいまいな表現を理解することが難しい」（68.5%）、「話をうまく組み立てられない」（52.5%）の順となっている。

【児】

全体の81.0%がコミュニケーションで困ったことが「ある」と回答している。

その内容としては、「難しい内容やあいまいな表現を理解することが難しい」（59.6%）、「声や言葉がでにくい（声が聞こえない、言葉が出ない）ため、自分の思いが伝わりづらい」（44.9%）の順となっている。

【発達】

全体の75.3%がコミュニケーションで困ったことが「ある」と回答している。

その内容としては、「難しい内容やあいまいな表現を理解することが難しい」（57.5%）、「話をうまく組み立てられない」（52.9%）の順となっている。

【難病】

全体の18.1%がコミュニケーションで困ったことが「ある」と回答している。

その内容としては、「声や言葉がでにくいいため、自分の思いが伝わりづらい」（47.7%）、「相手の話が聞き取りづらい」（32.7%）の順となっている。

6. 就労の状況について

（1）就労の有無、就労形態

【身体】

全体の24.5%が「就労している」、57.8%が「就労していない」と回答している。

また、就労形態としては、「正規の社員・従業員」（39.6%）、「臨時・日雇、アルバイト、パート」（24.8%）の順となっている。

【知的】

全体の48.1%が「就労している」、17.6%が「就労していない」と回答している。

また、就労形態としては、「施設で働いている（就労継続支援事業所など）」（45.5%）、「臨時・日雇、アルバイト、パート」（30.9%）の順となっている。

【精神】

全体の36.1%が「就労している」、53.4%が「就労していない」と回答している。

また、就労形態としては、「臨時・日雇、アルバイト、パート」（38.1%）、「施設で働いている（就労継続支援事業所など）」（26.7%）の順となっている。

【発達】

全体の51.9%が「就労している」、39.5%が「就労していない」と回答している。

また、就労形態としては、「施設で働いている（就労継続支援事業所など）」（42.9%）、「正規の社員・従業員」、「臨時・日雇、アルバイト、パート」がともに（26.2%）の順となっている。

【難病】

全体の40.9%が「就労している」、46.5%が「就労していない」と回答している。

また、就労形態としては、「正規の社員・従業員」（52.5%）、「臨時・日雇、アルバイト、パート」（25.2%）の順となっている。

(2) 仕事を探した方法（就労中の人）（複数回答）**【身体】**

回答割合が高い順に、「その他」（21.8%）、「ハローワークからのあっせん（紹介）」（18.1%）、「求人誌などで自分で探した」（17.6%）となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「学校、各種学校の紹介」（30.6%）、「ハローワークからの紹介」（19.2%）となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「求人誌などで自分で探した」（19.9%）、「ハローワークからのあっせん（紹介）」（17.6%）となっている。

【発達】

回答割合が高い順に、「施設（就労移行支援事業所など）に支援してもらった」、「求人誌などで自分で探した」がともに（19.0%）、「ハローワークからのあっせん（紹介）」、「学校、各種学校の紹介」がともに（16.7%）となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「求人誌などで自分で探した」（33.5%）、「その他」（18.6%）、「知り合いの紹介」（14.0%）となっている。

(3) 月収（賞与などを除く）**【身体】**

回答割合が高い順に、「20万円～30万円未満」（18.9%）、「10万円～15万円未満」（16.7%）となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「5万円～10万円未満」（27.1%）、「10万円～15万円未満」（21.4%）となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「5万円～10万円未満」（24.4%）、「10万円～15万円未満」（19.3%）となっている。

【発達】

回答割合が高い順に、「10万円～15万円未満」（28.6%）、「1万円～3万円未満」（21.4%）となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「20万円～30万円未満」（26.9%）、「10万円～15万円未満」（19.4%）となっている。

(4) 就労意向**【身体】**

全体の32.4%が「働きたい（働き続けたい）」、55.1%が「働きたくない」と回答している。

【知的】

全体の60.9%が「働きたい（働き続けたい）」、20.1%が「働きたくない」と回答している。

【精神】

全体の65.5%が「働きたい（働き続けたい）」、29.2%が「働きたくない」と回答している。

【発達】

全体の86.4%が「働きたい（働き続けたい）」、6.2%が「働きたくない」と回答している。

【難病】

全体の51.8%が「働きたい（働き続けたい）」、40.3%が「働きたくない」と回答している。

(5) 就労支援として必要なこと（複数回答）

【身体】

回答割合が高い順に、「調子の悪いときに休みを取りやすくする」(40.0%)、「短時間勤務などの労働（作業）時間の配慮」(34.3%)となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「調子の悪いときに休みが取りやすい」(47.7%)、「仕事（作業）の援助や本人・周囲への助言を行う者（ジョブコーチなど）の支援がある」(47.6%)となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「調子の悪いときに休みを取りやすくする」(64.7%)、「収入の増加」(52.4%)となっている。

【発達】

回答割合が高い順に、「仕事（作業）上の援助や本人・周囲への助言を行う者（ジョブコーチなど）による支援」(69.1%)、「発達障がいの特徴を踏まえた作業手順の視覚化などの配慮」(61.7%)となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「調子の悪いときに休みを取りやすくする」(61.3%)、「短時間勤務などの労働（作業）時間の配慮」(41.3%)、「在宅勤務」(40.4%)となっている。

7. 福祉サービスの利用について

福祉サービスの利用意向

【身体】

回答割合が高い順に、「福祉乗車券の交付」(38.4%)、「福祉タクシー料金の助成」(34.3%)、「福岡市重度心身障がい者福祉手当」(26.9%)となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「福祉乗車券の交付」(27.5%)、「福岡市重度心身障がい者福祉手当」(27.4%)、「グループホーム」(24.0%)となっている。

【児】

回答割合が高い順に、「放課後等デイサービス」(70.5%)、「児童発達支援」(40.0%)、「短期入所」(35.2%)となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「福祉乗車券の交付」(22.8%)、「福祉タクシー料金の助成」(20.9%)、「就労継続支援（B型）」(19.7%)となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「補装具」(12.2%)、「日常生活用具」(10.8%)、「自立訓練」(10.2%)となっている。

8. 今後の暮らし方について

(1) 希望する今後の暮らし方

【身体】

回答割合が高い順に、「家族と一緒に暮らしたい」(41.4%)、「一人で暮らしたい」(20.6%)となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「家族と一緒に暮らしたい」「グループホームなどの地域で共同生活できる住居で暮らしたい」がともに(22.0%)、「一人で暮らしたい」(18.1%)となっている。

【児】

回答割合が高い順に、「グループホームなどの地域で共同生活できる住居で暮らしたい」(32.9%)、「わからない」(23.8%)となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「一人で暮らしたい」(39.2%)、「家族と一緒に暮らしたい」(26.7%)となっている。

【発達】

回答割合が高い順に、「家族と一緒に暮らしたい」(36.8%)、「わからない」(25.5%)となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「家族と一緒に暮らしたい」(47.0%)、「一人で暮らしたい」(19.6%)となっている。

(2) 自宅やグループホームなどで生活するために必要な条件（複数回答）

【身体】

回答割合が高い順に、「主治医や医療機関が近くにあること」(34.1%)、「調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」(29.5%)、「スーパーや銀行などの生活に必要な機関が近くにあること」(27.0%)となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」(29.6%)、「仕事があること」(24.4%)、「就労継続支援事業所（A型、B型）で働けること」(22.2%)となっている。

【児】

回答割合が高い順に、「お子さんの見守りを頼める人がいること」(40.2%)、「調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」(28.7%)、「仕事があること」(27.9%)となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」(34.3%)、「仕事があること」(33.7%)、「主治医や医療機関が近くにあること」(31.4%)となっている。

【発達】

回答割合が高い順に、「仕事があること」(51.5%)、「地域や職場の人たちが障がいについて理解があること」(29.4%)、「調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」(26.0%)となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「主治医や医療機関が近くにあること」(34.0%)、「調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること」(27.7%)、「スーパーや銀行などの生活に必要な機関が近くにあること」(25.5%)となっている。

9. 情報収集や相談について

相談窓口の利用状況

【身体】

利用割合が高い相談窓口としては、「区役所の福祉・介護保険課」(54.9%)、「あいあいセンター(心身障がい福祉センター)」(7.1%)、「民生委員・児童委員」(6.9%)の順となっている。

【知的】

利用割合が高い相談窓口としては、「区役所の福祉・介護保険課」(53.6%)、「あいあいセンター(心身障がい福祉センター)」(49.3%)、「区障がい者基幹相談支援センター」(18.8%)の順となっている。

【児】

利用割合が高い相談窓口としては、「あいあいセンター(心身障がい福祉センター)、西部療育センター、東部療育センター、南部療育センター」(83.8%)、「区役所の福祉・介護保険課」(77.2%)、「こども総合相談センター」(30.1%)の順となっている。

【精神】

利用割合が高い相談窓口としては、「区保健福祉センター(健康課)」(46.0%)、「保健所(精神保健・難病対策課)」(21.8%)、「精神保健福祉センター」(17.5%)の順となっている。

【発達】

利用割合が高い相談窓口としては、「あいあいセンター、西部療育センター、東部療育センター、南部療育センター」(60.2%)、「区役所の福祉・介護保険課、保健福祉センター」(56.3%)、「ゆうゆうセンター」(36.4%)の順となっている。

【難病】

利用割合が高い相談窓口としては、「保健福祉センター(区役所の健康課)」(23.5%)、「区役所の福祉・介護保険課」(20.5%)、「福岡市難病相談支援センター」(10.7%)の順となっている。

10. 地域とのかかわりについて

近所の方との関係及び地域行事への参加状況

【身体】

近所の方との関係としては、「あいさつをする程度の人ならいる」(28.5%)、「ほとんど付き合いはない」(26.3%)の順となっている。

また、地域行事への参加状況としては、56.4%が「参加していない」と回答している。

【知的】

近所の方との関係としては、「ほとんど付き合いはない」(41.2%)、「あいさつをする程度の人がいる」(32.0%)の順となっている。

また、地域行事への参加状況としては、58.3%が「参加していない」と回答している。

【児】

地域の方との付き合いの状況としては、「会った時はあいさつしあう」(70.9%)が最も高い回答割合となっている。

【精神】

近所の方との関係としては、「ほとんど付き合いはない」(43.1%)、「あいさつをする程度の人ならいる」(30.8%)の順となっている。

また、地域行事への参加状況としては、55.6%が「参加していない」と回答している。

【発達】

近所の方との関係としては、「あいさつをする程度の人ならいる」(33.3%)、「ほとんど付き合いはない」(32.5%)の順となっている。

また、地域行事への参加状況としては、36.4%が「参加していない」と回答している。

【難病】

近所の方との関係としては、「ほとんど付き合いはない」(31.5%)、「あいさつをする程度の人ならいる」(29.4%)の順となっている。

また、地域行事への参加状況としては、55.7%が「参加していない」と回答している。

11. 防災について

地震などの災害発生時に困ることや不安なこと及び災害時に頼れる人（複数回答）

【身体】

災害発生時に不安なこととしては、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」（39.2%）、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（31.0%）、「一人では避難できない」（29.8%）の順となっている。

また、災害発生時に頼れる人としては、「同居の家族」（56.9%）が最も高い回答割合となっている。

【知的】

災害発生時に不安なこととしては、「一人では避難できない」（43.4%）、「避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい」（41.1%）、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（39.5%）の順となっている。

また、災害発生時に頼れる人としては、「同居の家族」（67.5%）が最も高い回答割合となっている。

【児】

災害発生時に不安なこととしては、「一人では避難できない」（73.7%）、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（47.7%）、「子どもが助けを求める方法がない」（47.1%）の順となっている。

また、災害発生時に頼れる人としては、「同居の家族」（86.3%）が最も高い回答割合となっている。

【精神】

災害発生時に不安なこととしては、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」（52.6%）、「避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい」（36.8%）、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（30.6%）の順となっている。

また、災害発生時に頼れる人としては、「同居の家族」（45.6%）が最も高い回答割合となっている。

【発達】

災害発生時に不安なこととしては、「避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい」（47.6%）、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（39.8%）、「一人では避難できない」（30.3%）の順となっている。

また、災害発生時に頼れる人としては、「同居の家族」（83.5%）が最も高い回答割合となっている。

【難病】

災害発生時に不安なこととしては、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」（51.4%）、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（27.7%）、「一人では避難できない」（20.1%）の順となっている。

また、災害発生時に頼れる人としては、「同居の家族」（58.7%）が最も高い回答割合となっている。

12. 差別や人権について

差別を受けたり、いやな思いをした経験及びその内容（複数回答）

【身体】

全体の16.5%が直近2～3年の間に差別を受けたり、いやな経験をしたことが「ある」と回答している。

その内容としては、「バス、電車、タクシーの乗員の対応で不愉快な思いをした」（22.9%）が最も高い回答割合となっている。

【知的】

全体の31.0%が直近2～3年の間に差別を受けたり、いやな経験をしたことが「ある」と回答している。

その内容としては、「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」（25.6%）が最も高い回答割合となっている。

【児】

全体の41.4%が直近2～3年の間に差別を受けたり、いやな経験をしたことが「ある」と回答している。

その内容としては、「入所・通所している施設、保育所（園）・幼稚園や学校の職員及び他の児童生徒の対応で不愉快な思いをした」（41.0%）が最も高い回答割合となっている。

【精神】

全体の39.2%が直近2～3年の間に差別を受けたり、いやな経験をしたことが「ある」と回答している。

その内容としては、「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」（29.3%）が最も高い回答割合となっている。

【発達】

全体の34.2%が直近2～3年の間に差別を受けたり、いやな経験をしたことが「ある」と回答している。

その内容としては、「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」（45.6%）が最も高い回答割合となっている。

【難病】

全体の8.8%が直近2～3年の間に差別を受けたり、いやな経験をしたことが「ある」と回答している。

その内容としては、「その他」（38.5%）、「バス、電車、タクシーの乗員の対応で不愉快な思いをした」（21.2%）の順で回答割合が高くなっている。

1.3. 福祉施策全般について

障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと（複数回答）

【身体】

回答割合が高い順に、「年金など、所得保障の充実」（42.2%）、「障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実」（42.1%）となっている。

【知的】

回答割合が高い順に、「年金など、所得保障の充実」（36.4%）、「障がい者に配慮した保健、医療体制と医療費公費負担制度の充実」（31.3%）となっている。

【児】

回答割合が高い順に、「特別支援教育の充実」（32.1%）、「年金など、所得保障の充実」（30.5%）となっている。

【精神】

回答割合が高い順に、「年金など、所得保障の充実」（52.6%）、「障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実」（39.4%）となっている。

【発達】

回答割合が高い順に、「就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）」（39.8%）、「年金など、所得保障の充実」（33.3%）となっている。

【難病】

回答割合が高い順に、「年金など、所得保障の充実」（43.0%）、「障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実」（42.3%）となっている。

1.4. 障がい者への福祉サービスを提供する事業者等の状況

（1）事業所の概要について（提供サービスの種類・数）

提供サービス別の事業所数は、「居宅介護」（25.9%）、「就労継続支援（B型）」（16.7%）、「共同生活援助」（16.4%）の順となっている。

（2）障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと（複数回答）

回答割合が高い順に、「居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実」（32.7%）、「困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実」（30.3%）、「障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」（25.8%）となっている。

（3）事業所の観点から不足している社会資源及び事業を実施するうえでの課題（複数回答）

【相談支援事業】

不足している社会資源としては、「強度行動障がいに対応できる短期入所施設」（41.0%）、「高度なスキルを持ったホームヘルパー等の人材」（34.9%）、「医療ケアが可能な短期入所施設」（31.9%）の順となっている。

また、事業実施上の課題としては、「相談支援に対する国の報酬が安い」（58.4%）、「作成する書類の種類や数が多く、事務処理に追われている」（51.2%）の順となっている。

相談支援の発展のために必要なこととしては、「相談支援に対する国の報酬を高くすること」（61.4%）、「事務処理を効率化すること」（57.2%）の順となっている。

【居宅介護等事業】

居宅介護等事業所で取り組むべきこととしては、「職場内での人材育成・教育の充実」（69.8%）、「事務処理の効率化」（43.5%）の順となっている。

【行動援護・同行援護・移動支援事業】

行動援護・同行援護・移動支援で不満に思うこととしては、「金銭的負担が大きいタクシーを利用せざるを得ない場合がある」（53.1%）が最も高い回答割合となっている。

また、行動援護の実施にあたる困難としては、「要件を満たすヘルパーが集まらない」（60.7%）が最も高い回答割合となっている。

【施設事業】

不足している社会資源としては、「強度行動障がいに対応できる短期入所施設」、「連携できる医師・医療機関」がともに（33.5%）、「障がい者が入居できる住まい」（28.0%）の順となっている。

また、サービス提供上の課題としては、「職員の確保、人材育成」（76.5%）、「利用者の高齢化」（31.9%）、「地域との交流」（30.5%）の順となっている。

施設入所者が地域（在宅）で暮らしていくために必要な条件としては、「身近なところで様々な相談ができること」、「保健・医療・福祉が連携した支援体制があること」がともに（47.7%）、「一人ひとりの希望にあった日中活動の場（施設）があること」（36.4%）、「障がい者が入居できる民間住宅（アパート等）があること」、「必要な時に、一時的に入所できる施設があること」がともに（35.8%）の順となっている。